

## 市長メッセージ（令和3年1月12日）

先日、神奈川県では、新型コロナウイルスの感染経路や濃厚接触者を調べる「積極的疫学調査」について、県内全域で大幅に縮小すると報道があり、その後、横須賀市ではどうなのかと非常に多くのご心配の声をいただきました。そのため本日は、現在の横須賀市での疫学調査の状況を、皆さんにお伝えしたいと思います。

去る1月8日、神奈川県は、感染の状況が既に蔓延期に移行していると考えられること、更には保健所の業務が増大し、新規感染者への適切な対応が難しくなってきたことから、疫学調査の対象を感染リスクが高い医療、福祉関係などに限定すると発表がありました。

県のように広域にわたる感染対策から勘案すれば、仕方がないことと思いますが、しかし横須賀市では、陽性者の早期発見、早期対応が感染拡大を抑え込める有力な手段であるとの考えのもと、今後もこれまでと同様に、可能な限り迅速にそして広範に、調査及び検査を実施していきたいと考えておりますので、皆さんにおかれましては、何卒、ご安心をいただきたいと思います。

確かに、本市でも、昨年12月から感染が急速に拡大し、保健所の業務が増大していることは事実であります。ただ横須賀市医師会や三浦半島病院会等のご協力により、PCRセンターを3か所に拡大した検査体制の確保に加え、現在、市役所全庁を挙げての保健所業務支援など、以前より調査・検査体制を強化しているところであります。

今後も横須賀市の疫学調査は、県の発表のように一律に対象を限定することなく、ケースに応じた勤務先への調査などを実施してまいります。また、医療、福祉関係に対し、クラスターの発生が懸念される場合には、更に手厚い検査体制をとるなど、調査の対象を広げてまいりますので、ご安心をいただきたいと思います。

現在も、緊急事態であることは変わりありません。是非とも引き続き、手洗い、マスクの励行や不要不急の外出を控えるなどの感染対策を、改めて徹底していただきますよう、よろしく願い申し上げます。